

農業機械と点検整備



自動車の車検の時期が近づいてくると、

「うわ～」という金銭的な悲鳴をあげたくなる人もいるでしょう。
2年に1度の断末魔の叫び、とでも呼べばいいでしょうか。

一方、トラクタ、田植機、コンバインなどの農業機械には車検の必要がありません。
これは、農業機械が基本的に小型特殊自動車に分類されるためです。

しかし、「車検が無い」ということを、素直に喜んで良いのでしょうか。
なぜなら車検が無いために、農業機械のメンテナンスは全て自己責任となってしまいます。
機械のパフォーマンスと安全は、農業者の手に委ねられたのです。

では、どこに目星を付けて点検整備をすると良いかというところ、
以下の農業機械メーカーのサービスコールの内容（依頼の多い順）をご覧ください（*1）。

トラクタ：①オイル交換（12%）、②オイル漏れ（9%）、③部品注文（9%）
田植機：①点検依頼（17%）、②エンジンかからない（15%）、③取扱説明指導（6%）
コンバイン：①点検依頼（14%）、②ベルト交換（11%）、③動かない（7%）

エンジンやオイル関係にてトラブルが多く、ここが点検の重要ポイントだと考えられます。
なお、これらのトラブルの原因は、腐ってしまった（劣化した）ガソリンの使用や
経年劣化したオイルシールの不良であることが多いとされています（*2）。

また、トラブルの多くは、事前の点検によって防ぐことができたとみられており、
特にトラクタについては、分析したサービスコール（6,210件）の47%が、
事前点検でトラブルの未然防止ができたとされています（*1）。

点検整備の基本は、取扱説明書に詰まっています。
年に1回は、時間をかけて機械の面倒をみてあげたいところです。

※田植機、コンバインの点検整備については、来年度に本校で研修を実施する予定です。

参考資料

- （*1）株式会社クボタ調べ（トラクタ・田植機は2009年春、コンバインは2010年秋）
- （*2）株式会社秋田クボタHP